

# こころみ

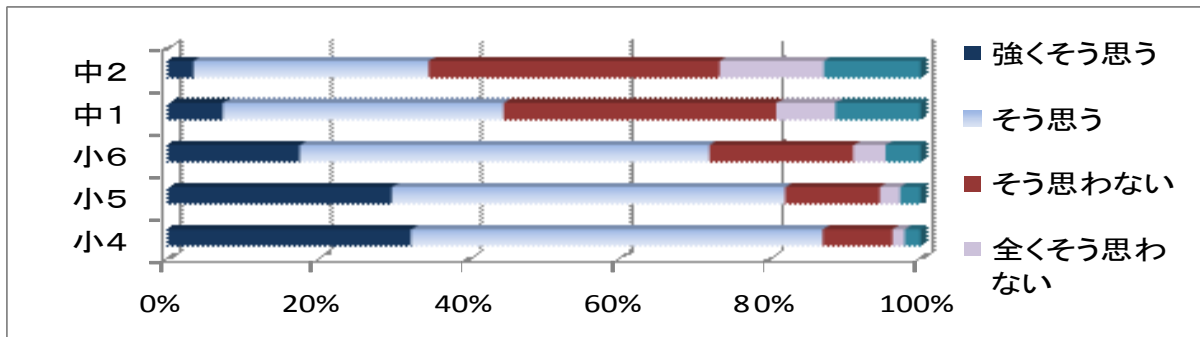


H21.7.23 担当：校長会

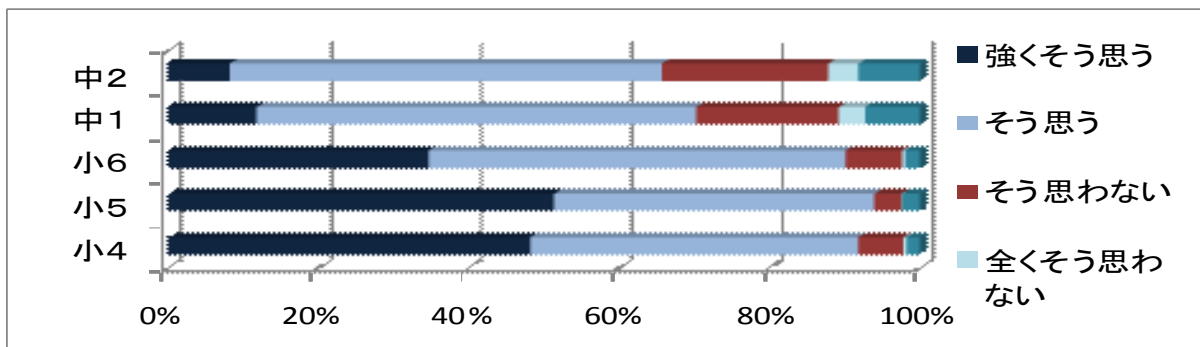
## 小・中学校及び家庭・地域との連携の推進について考える

今年度から学校評議員会は中学校区で開催されます。小中の連携をよりスムーズに行うものです。そこで、今回は小中連携の必要性と取り組みについて考えます。

○勉強が好きだ (平成20年度 学習状況調査 大館市の状況)



○学校の勉強がよくわかる (平成20年度 学習状況調査 大館市の状況)



### 小中連携教育の必要性について

上のグラフは、大館市の児童生徒の勉強に関する意識調査の一部です。学年が進むにつれ「勉強が好きだ」「学校の勉強がわかる」割合が少なくなっています。また、小学生と中学生の意識の違いが大きく変化していることも目に付きます。このように、小学生と中学生の違いはこの調査以外にも様々なところにも見られます。不登校の子ども数が急激に増加したり、生徒指導上の問題が多く発生したり、好きだった教科が嫌いになったりしています。これは、思春期を迎える小学校高学年から中学校にかけての心身の成長や変化が大きくなる時期と重なり、また、精神的に不安定な時期にあたっているからと片付けてしまいがちです。小学校から中学校の間にある段差を適切なものとし、それを乗り越えるために、小中学校が互いに連携をとった教育を進めることで、これらが少しでも改善できるはずです。互いに歩み寄り小中連携教育を推進することで、「豊かな心」と「確かな学力」を一層はぐくむことができるのではないのでしょうか。

大館市では今年度、中学校区単位で小中学校の連携を図る取り組みを進めています。小学校6年生、中学校1年生は、「学校生活は楽しい」と感じていますが、小学校6年生は、中学校の学習や生活に対して不安を感じています。その不安を少しでも和らげ、前向きな気持ちで学習に向かい学校生活に充実感を感じられるようにしたいものです。

## 小中連携で考えられること

### ○教科指導の系統性

- ・小学校で学習していることが、中学校のどこの学習の基礎になっているのか、また、小中学校ではどのように考えさせ理解させているのかを、互いを知ることで、教科指導の改善を進めていきます。

小学校の教科書を準備して、系統性と連続性を図っている中学校もあります。

### ○子どもの発達段階の理解

- ・中学校の先生が、小学校で授業したときに「私の話を理解していないかもしれない」と不安に話すことがあります。説明して理解させ覚えさせようとしても子どもには無理があります。発達段階を考慮して、具体的な活動の中から考え方を見つけたり学ばせたりする、また、視覚に訴える等の工夫が必要な場合もあります。大館市では授業等交流案内を各校に提供しています。異校種の授業を参観しあうことが発達段階とそれに応じた指導を理解するよい機会となります

### ○専門性の発揮

- ・小学校の英語活動に中学校の英語科が協力し、年間計画立案や授業、小学校学級担任への支援に協力していくことが考えられます。授業のスピードや指導方法上の連続性を持たせることにもつながります。また、教科だけでなく、生徒指導をめぐっての小中学校の指導の一貫性を図るために生徒指導主事を交えた交流も効果的と思われます。

### ○情報を共有

- ・小学校から入学する子どもや中学校1年生の情報、小中学校の諸検査の分析を交換し共有することや、学習指導上、生徒指導上で落ち込みや問題の発生が予想されるような、気になることがらも子どもの状況として理解し共有することが、効果的な指導に結びつきます。

### ○家庭・地域との協力

- ・身に付けさせたい生活習慣を家庭に明示し周知することで共に育てる間柄になり連携することにつながります。  
(右の図は、子どもや家庭のアンケートを基に作成された生活習慣表)

**「家族みんなで育てたい」**

**めざす子ども像**

・何事にもやる気のある子  
・たくましさのある子  
・何事にも自信をもって取り組み、自立した子

生活習慣表	心に強く感動の あひさつ、会話	時間を守った 生活	家族いっしょの 読書習慣	自分のことは 自分で	正しい行事で 健康生活
<b>中学校</b>	・何と何を考えた あひさつ、会話	・学習時間の確保 (学年+1時間)	・一日一読新聞も	・自分のことは 自分で ・読書声かけ	・家族みんなでき て楽しい行事 ・正しい行事のつ くりだを心が けること
<b>小学校高学年</b>	・地域の人にも 運んであひさつ	・テレビゲームの 前に学習を	・テレビを消して 読書の時間を	・自分のことは 自分で ・読書声かけ	・家族みんなでき て楽しい行事 ・正しい行事のつ くりだを心が けること
<b>小学校低学年</b>	・友達、先生にも 元気にあひさつ	・テレビゲームは 時間を決めて	・テレビを消して 読書の時間を	・朝が見届け 前日学習	・家族みんなでき て楽しい行事 ・正しい行事のつ くりだを心が けること
<b>幼稚園・保育園</b>	・家族に元気に あひさつ	・早寝、早起き	・一日一冊 読書聞かせ	・親子で一緒に お片付け	・家族みんなでき て楽しい行事 ・正しい行事のつ くりだを心が けること

## 連携を推進するために

これらは、連携のほんの一例に過ぎません。学校の規模や地域性その他様々な環境によって連携の仕方や対策が異なると思います。

しかし、小中の連携によって子どもをより前向きに育てるには、具体的な教師の意識の変革が必要です。お互いが事実を直視し、子どもの成長の過程に関わり合いを深め連携することが、学校間の連携・接続の第一歩となります。

交換授業や授業研究、小中合同の行事等を通して、教師間の子ども理解、専門的な指導力を高めるとともに、例えば中学校教師はどのような小学校の児童が成長して中学校に入学してきたのか、小学校教師は小学校を卒業して中学校でどのように学び、育ちながら大人になっていくのかを、しっかりと自分の眼で確かめ、理解し、自らの指導の役割と責任を自覚することが重要であると思われます。

子どもの成長の過程を理解し、9年間を見通した系統的な視点による指導法の工夫改善を進めることにより、子どもの意欲と学力の向上が図れるのではないのでしょうか。